

## 【活用の区分判定基準について】

1. 積算基準	
2. 施工管理基準	
3. 実績数(全国)	
4. 活用の効果	
合 計	
判 定	

登録時の評価 活用調査後の評価	評価項目	AAA	AA	A	B	C	備考
	1. 積算基準	県及び他の公共機関が発行している標準的な積算基準が適用できる(土木工事標準積算基準書、港湾工事標準積算基準書、公園緑地工事標準積算基準書、下水道用設計標準歩掛表等・・・)	協会等の積算基準がある	メーカーの積算基準がある		積算基準がない	
	2. 施工管理基準	県及び他の公共機関が発行している標準的な施工管理基準が適用できる(土木工事施工管理基準書等)	協会等の施工管理基準がある	メーカーの施工管理基準がある		施工管理基準がない	
	3. 実績数(全国)	500件以上	100件以上	10件以上 100件未満	1件以上10件未満 実績はないが第三者機関等で技術審査を受けている (NEIS登録に係る審査を含む)	・全国での実績がない ・第三者機関等の技術審査を受けていない	
	4. 活用の効果			全て6点以上			①経済性②工程③品質・出来型④安全性⑤施工性⑥環境の各項目が6点以上
	5. 試験施工数 (静岡県)	30件以上	5件以上	1件以上5件未満			活用調査総括表(様式-8)の総合評価点が「△:やや劣っている」ものは試験施工数としてカウントしない。
	【判定基準】		レベル3:6A以上かつB、Cがない場合。国土交通省の新技术情報提供システム(NETIS)における「評価情報」として情報提供されている場合。 レベル2:6A未満かつCがない場合。または、6A以上かつBがありCがない場合。 レベル1:Cがある場合。				

## 【活用の区分】

- レベル1: → 実績がない新技术
- レベル2: → 活用後調査が必要な新技术
- レベル3: → 活用促進を図る新技术